

平成 30 年度京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

- 1 開催日時 平成30年10月26日（金）午後1時30分～午後3時40分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 205会議室
- 3 出席者 藤村 正美委員、中村 俊彦委員、齊藤 修司委員、寺田 昭夫委員、行待 佳平委員（副委員長）、田村 智委員（代理：村上 章様）、桑原 教彰委員（委員長）、中谷 真憲委員、吉田 和男委員、吉岡 美和委員（代理：森野 和仁様）、田中 寛明委員、麻生 浩之委員、長柄 俊治委員（代理：中邑 貴行様）、宮川 優委員、中島 薫委員、上田 美知子委員（代理：麻田 友子様）、森本 賢一郎様、尾瀬 崇様、安井 美佐子様（以上 19 名）
欠席者 岡田 政行委員、山崎 高雄委員、松本 博之委員、小牧 圭太委員（以上 4 名）

4 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 委員委嘱・紹介
- (4) 委員長・副委員長の選任
- (5) 委員長あいさつ
- (6) 議事
 - ア 京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成 29 年度進捗状況について
 - イ 平成 29 年度地方創生推進交付金活用事業について
 - (ア) EV 乗合タクシー事業（市単独事業）
 - (イ) 京都府北部地域連携都市圏形成推進プロジェクト（広域連携事業）
 - (ウ) 京野菜・織物リジェネレーション事業（広域連携事業）
 - ウ 平成 30 年度取組事業について
- (7) 意見交換
- (8) 閉会

5 主な内容

下記のとおり

事務局 : 定刻となりました。

本日は、各委員におかれましては、御多忙のなか、平成 30 年度京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。私は、事務局を担当しております市長公室の新井と申します。どうぞよろしく申し上げます。

■市長あいさつ

事務局 : 開会にあたりまして、市長より御挨拶申し上げます。

市長 : 本日は、お忙しいなかを御出席いただき、誠にありがとうございます。

本委員会は、皆様も御承知のとおり、本市の人口減少対策に焦点をあてました計画であります「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進と検証を行うために設置をしているものであります。産官学金労言など広い分野の皆様から御意見を伺うために会議を開催させていただいております。

いま、日本全国で人口減少の局面に突入しているわけですが、本市の人口推移を見ておきますと、ここ 10 年程は毎年 700 人から 800 人の減少が続いており、国勢調査の結果をみましても、平成 22 年調査から平成 27 年調査までの 5 年間で約 4 千人が減少しております。現在の本市人口は、今年 9 月末時点では 5 万 5,266 人ですが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると今後も減少が続いていくという予想が出ております。非常に厳しい現状にあるということがいえると思います。

そのなかで、本市では、当面の間はこの人口減少のスピードを少しでも緩やかにしていくことを最優先に考えまして、市の最上位計画であります総合計画や、人口減少対策に焦点をあてた計画であります総合戦略を軸に、様々な事業に取り組んでいるところでございます。

本日はこの後、事務局から、昨年度の総合戦略の進捗状況や今年度取り組んでいる事業などについての報告をさせていただきますので、委員の皆様には、日頃の仕事や生活の中で感じておられる課題や現状等について、積極的に御発言いただきたいと思っております。

本市の人口減少に少しでも歯止めをかけるため、皆様から多くの忌憚のない御意見や御提案をいただきまして、いただいた御意見等については今後の施策に活かして参りたいと考えておりますので、限られた時間でございますが、よろしく御願ひ申し上げまして、開会の御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく御願ひ申し上げます。

事務局 : 市長は他の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

■委員委嘱・紹介

事務局 : 議題に入らせていただく前に、お手元に配付しております委員名簿を御覧ください。今回、役員の異動等によりまして、新たに 11 名の方に委員に就任いただくことになりましたので、事務局より紹介させていただきます。本来でしたら、お一人ずつ委嘱通知書を交付させていただくべきところではあり

ますが、時間の都合上、席上配布に代えさせていただきます。御了承賜りますようお願い申し上げます。

新しい委員様の方々の所属とお名前を名簿の順番に紹介させていただきますので、恐れ入りますが、自席にて御起立のうえ、一礼をいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

～委員紹介～

ありがとうございました。なお、本日は御欠席ですが、京都府漁業士会 副会長の岡田 政行 様、一般社団法人京丹後青年会議所 副理事長の小牧 圭太様につきましても、新たに就任されています。

他の委員様の御紹介は、委員名簿の配布に代えさせていただきますたく存じますので、御了承いただきますようお願いいたします。

また、事務局の紹介もさせていただきます。

～事務局紹介～

なお、本日は、関係課からも出席をさせていただいております。

～関係課紹介～

以上、よろしく願いいたします。

■委員長・副委員長の選任

事務局 : 委員長及び副委員長の選任に移らせていただきます。

これまで委員長を務めていただいております京都工芸繊維大学の森迫様は、本年 4 月に学長に御就任されたことに伴い委員を辞職されました。また、副会長を務めていただいております京丹后市商工会の沖田様も、本年 5 月に商工会長を退かれたことに伴い、委員の委嘱を解かせていただいております。したがいまして、現在不在となっておりますので、本日新たに委員長と副委員長を選任するものでございます。

選任の方法については、「京丹后市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱」第 5 条に基づきまして、委員の互選によりお決めいただくことになっておりますが、いかがさせていただきますでしょうか。

委員 : 事務局一任

事務局 : ありがとうございます。事務局一任とのお声をいただきましたので、事務局から推薦をさせていただきたいと思っております。委員長には、京都工芸繊維大学 学長補佐の桑原様、副委員長には京丹后市商工会 会長の行待様を推薦させていただきますたく存じます。いかがでしょうか。

委員 : 異議なし

事務局 : ありがとうございます。それでは、委員長は桑原様、副委員長は行待様にお世話になりたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。お二人は、前方の委員長席、副委員長席へ移動をお願いいたします。

■委員長あいさつ

事務局 : ここで、委員長から御挨拶をいただきたいと存じます。委員長、よろしく

お願いいたします。

委員長 : 皆様、委員長に就任いたしました桑原でございます。

京都工芸繊維大学が福知山市内に女子高の跡地を買い取り、そこに福知山キャンパスを運営しております。私は現在、そのキャンパス長をさせていただいております。本キャンパスの目的は、京都府北部地域の高校生の方々に京都工芸繊維大学を受験していただいて、3年時からは北部地域の企業様とのインターンシップで学んでもらい、北部の企業をもっと知ってもらい、地元での就職に繋げようということで、そういった意味で京丹後市を含めた北部地域の皆様とは、今後とも末永い付き合いをしていきたいと考えております。また、私は元々、高齢者や障害者の方の工学的支援をするという研究をしております。その関係で、京都工芸繊維大学に着任する以前から京丹後市内の福祉施設と繋がりがあり、以来、京丹後市と深く関わっております。最近では、京丹後市の障害者福祉課の方と一緒に、福祉作業所の環境改善を目的とした取組みをさせていただいております。高齢者の方、障害のある方、その方と健常者の方が一緒に新しい価値を創造して、皆が幸せに暮らせるような、そんな町づくりを目指したいという風に考えております。

本委員会の運営にあたっては、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

■資料確認

事務局 : ありがとうございました。

ここで、資料の確認をさせていただきます。委員の皆様には事前に資料をお送りさせていただいており、本日持参いただくようお願いをしておりましたが、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、事務局までお声かけください。

また、本日の差し替え資料ということで、席次表、名簿、資料1の3点をお手元に配付しております。

～資料確認～

それでは、これより先の議事進行につきましては、委員長にお願いしたく存じます。どうぞよろしくをお願いいたします。

■議事内容

委員長 : 承知しました。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。議事1「京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成29年度進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

事務局 : 【資料1、資料2により説明】

委員長 : ただいまの事務局の説明について御意見、御質問等はございませんでしょうか。例えば、基本目標1の「本市にしごとをつくり、安心して働けるようにする」という目標がありますが、市からは約42%は目標を達成しているという報告でしたが、これは実際の産業分野の関係者が感覚としてかというのも大事かと思えます。

委員 : 市が数値を取られた部分と、我々が実際に企業活動している部分とでは、当然感覚が違う部分があるだろうとは思いますが。

我々はお蔭様で、ここ 2 年間は非常に景気がよく推移しているということで、日本全国、人手不足というか、人材確保を苦勞されておられると思います。特に我々の地域は、少子高齢化の中でほとんどの若者が都会に出て行ってしまおうということで、今一番大きな課題としては、この忙しい中でいかに人材を確保するのかということが課題ですが、すぐに解決されることではないと思っています。将来に向けて、行政に頼るだけでは当てにならない部分もあり、我々は独自の動きをしたいということで、いろいろと取り組んでいます。

例えば、「丹後こども未来プロジェクト」。例えば、地元の産業にはこんなものがあるということをお PR するために、社長様方が小学校や中学校に出向いて出前授業をさせていただいています。また、高等学校とは、これまでは地元の峰山高校との付き合いしかありませんでしたが、最近では丹後教育管内 6 校すべてに向けて色々と情報発信をしており、今週も久美浜高校 1 年生全員 90 名が企業見学ということで 6 社ほどを見学されています。単に見学していただくだけではなく、もの作りでは皆様非常に苦勞をされている中で、こういったことを考えてもの作りをしているのかという部分にも視点を置き、現場を見るだけではなく社長様との時間を設けさせていただいたりもしています。こういった活動を展開しています。

高校を卒業すると進学等でいったんは丹後を離れる部分はありますが、こういった産業が丹後にはあるということをお子どもの頃から知ってもらうことは非常に有効かなということで、そういった活動を展開しております。

委員長 : ありがとうございます。他に御意見は。

委員 : 私はラジオを通して色々と市民の皆様にお伝えしているなかで、実態をお伝えするのはもちろんですが、それよりも少し深く踏み込んで、なぜこういった結果になったのかということもお伝えしないと、リスナーの皆様は納得しないというところがありますので、私たちも日々勉強しながら京丹後市の実態を学んでいるところであります。

昨年度の進捗状況は、やはり目標を達成しているのかどうなのかということが気になるところで、ページ数としては 8 ページと 9 ページのところ、達成していないものが多いということに気が付きました。観光分野ですね。私たちもラジオを通して京丹後の魅力もお伝えしている中で、多くの観光客の方に来ていただきたい。けれども、達成していない目標が多い理由として、「災害が多かった」というのも先ほどの報告の中でありました。来年も再来年も、たぶん災害というのはこれから多く発生してくると思うのです。その度に「災害があったから仕方ないな」では済まされないと。こういったあたりでは、他の委員がどうお考えでいらっしゃるのか。昨年の状況はこういった状況で、今年も災害が多かったのも、今年はどういう状況なのか聞かせていただきたいと思っています。

委員 : 観光業では、事業者は個々に努力はしており、海の京都 DMO との連携、様々なイベントを開催するなどしているのですが、高速道路が繋がり日帰り客は伸びていますが宿泊客の増加に繋がらないのが実態です。また、災害も多い。

今までは、我々は薄く広くイベントや業務を行っていたのですが、これからは、深く 1 本 2 本の柱を立てて、それに伴って事業を行うという形をとり、京丹後市を全国に売るような形で、市も観光協会も DMO 本部も取り組んでいかないといけないと思っています。

委員長 : 私も、天橋立や城崎から上手いこと京丹後市へ周ってもらえるような、そういった人の流れを作れないかなと思います。決定的なのは、鉄道が京都大阪から天橋立、京都大阪から城崎という点であり、そういった部分をどう変えていったらいいのかということだと思のですが。例えば、最近流行のカーシェアリングのように、天橋立や城崎からカーシェアリングで京丹後市を周遊してもらおうといったようなプランなど、具体的に何かございますか。

委員 : 個人で外国人を誘客している、インバウンドで人を呼んでいるという事業者は少ないと思います。城崎にしても天橋立にしても、どこかのエージェントが間に入って誘客しており、バスで周遊する形がほとんどです。ただ、個人で誘客するにはどうしたらいいのかという点は、どこの事業者も悩んでいることだと思います。今はインスタグラムなどで発信しているところもありますが、なかなか京丹後の魅力が紹介しきれれていません。

委員長 : ありがとうございます。他に御意見、御質問等ありませんでしょうか。

委員 : 外国人観光客の方に関していうと、例えば、日本人がすごく好きな中華料理屋さん、日本にやってくる中国人観光客の方がいいなと思っておられる中華料理屋さんのリストは全く違うということがよくあります。これは、使っているツールが違うからです。また、中国人のコミュニティや独自ネットワークもあります。それにどうやって入っていくかというのがひとつの課題です。

もうひとつ、例えば、中国の方は、ウェブは日本とは違うメディアを見ている実態があります。ウェブに関しては、中国の方が目にするサイトへの露出が高まらないことには、実態として彼らに実際情報が届かないということがあります。日本とは違ったメディアツールがあるという点に留意し、そこに情報を差しこんでいくという方向を目指していくと、少しは回復に近づくのではないかなと思います。

委員長 : 基本目標 1 や 2 の関係で意見等をいただきましたが、その他の基本目標 3 や 4 についても御意見等ありましたらお願いします。

委員 : 基本目標 2 のところです。京丹後市の姉妹都市を中国と結んでいたと思うのですが。

事務局 : 壱州市です。

委員 : 壱州市は、確か海がないですね。私は中国には行ったことがなく、地図上だけで申し訳ないのですが、いわゆる姉妹都市を結んでいるという利点を

うまく使って、そういったところから中国にどんどん京丹後市を広めていくというのがひとつのテーマだと思います。

国内の姉妹都市でよくありますのは、姉妹都市間で色々なイベントの情報を交換して流し、例えば都心の市と地方の市が互いに情報を流すことで、首都圏から地方にお客様を呼び込むという方法を取っているところがあるように聞いております。

ですから、中国でウェブに載せる載せないという話の前に、中国のどこかを基点にして、そこから情報を広めていくという形をとるのもひとつの手ではないかなと思います。

委員長 : ありがとうございます。他にございませんか。

委員 : 私たちの団体では、去年はできませんでした。婚活に関係すること頑張って行ってきました。国際交流を進める中で、今、京丹後市にはベトナムからたくさんの方が働きに来ていますね。その方たちに「丹後で結婚してください。」と言ったら、「結婚はしない。帰る。」と答えるのです。でも、実際に丹後にお嫁様に来ておられるベトナムの方がいるのですが、その方は「ベトナムには、日本に嫁ぐための学校がある。」と言われます。そういうところがあるのなら、ぜひコンタクトを取ってほしいと私は思います。コンタクトのとり方が私には分かりませんので、よろしくお願ひしたいと思っております。

委員長 : 貴重な御意見ありがとうございます。これは基本目標 3 の項目で、結婚希望者婚活支援による結婚成立に深く関わってくると思います。ぜひよろしくお願ひします。他に御意見等ございませんか。

委員 : 先ほどの委員からの意見に関連してです。京丹後市は、今まで、日本人の配偶者など日本にずっと住める永住者が一番多い在留資格でしたが、昨年から技能実習生が一番多くなりました。最近では女性ばかり増えているのですが、色々な団体様や企業様から私たちの団体も支援をいただきながら、地域の方との国際交流事業を進めているところです。

結婚については、結婚ですので良い面も悪い面もあると思いますが、外国出身の女性については、関わってくれる方がたくさんおられるお嫁さんはとても幸せに暮らされていますが、関わる方が少ない方は地域と繋がれない部分があります。そういった方が出来るだけ外の方とも繋がれるように、色々なところと連携できればなと思っております。

委員長 : ありがとうございます。

それでは、続きまして、議事 2「平成 29 年度地方創生推進交付金活用事業について」、事務局から説明をお願いします。

事務局 : 【資料 3、資料 4 により説明】

委員長 : 事務局の説明について、御意見、御質問等はございませんでしょうか。

委員 : 資料 4 の 1 ページを確認させていただきたいのですが、当初は、車種は日産リーフで業者が丹後海陸交通様ということだったと思いますが、現在もこの状態は変わっていませんか。

事務局 : はい。丹後海陸交通様で、車両としては日産リーフを使った乗合タクシーで進めさせていただいております。

委員 : 課題の中に、運転手不足の部分で確保に努めるという文言が盛り込まれているのですが、運転手不足解消については何か業者から市に対して運転手確保の斡旋といった要請があって、こういった文言を盛り込まれたのかどうか、確認をしたいです。運転手確保というのは単なる業者の問題なのか、業者から市へもそういった要請があって、市もそれなりに関与しているのかどうか、ということを確認したいです。

事務局 : この EV 乗合タクシーについても、もちろん 2 種免許が必要ということになりますが、そういった資格を持った人もなかなか集まってこない、人手不足というのが現状です。バスの運転手についてはかなり深刻な状況ということを知っております。バスの場合は、運転手育成に会社としても独自に取り組んでおられるなど、一定の取組みも行ってはおりますが、それでもなお人が集まってこないという状況があります。

運転業務となりますと、どうしても朝早くから夕方までの業務になってきたり、土日の休みが確保できなかつたりという労働条件の部分で、今は業種的に手手がなかなかいけないというのが現状であります。他の仕事も一定人手不足で困っておられるというなかで、休みだとか労働条件といった点でこの業種が避けられるようになってきているのが現状だと聞いております。

様々な企業努力もされているなかで、こういった実態もお聞きしながら、できる支援を検討していくということでもあります。行政が斡旋ということは、ハローワークではないのでやりにくいということはあると思いますが、全体として人材不足、人手不足の部分はお聞きしながら、出来ることはさせていただければと考えております。

委員長 : 他に御意見、御質問等ございませんでしょうか。

私も EV 乗合タクシーについて質問させていただきます。EV 乗合タクシーを導入したことで、部分的にタクシー業者が回復してきた、サービスを再び開始するようになったと伺ったのですが、そういったタクシー業者は乗合タクシーのようなサービスを提供しているのでしょうか。

事務局 : 乗合タクシーという形式ではなく、普通のタクシーだと聞いております。なお、この事業ですが、乗合タクシーということで行っておりますが、現実としては乗合のかたちではあまり活用されていないと聞いております。

委員長 : 他に御意見、御質問等ございませんでしょうか。

では、私から振らせていただきます。資料 4 の 3 ページ、高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数に関してです。この点については、京都工芸繊維大学も福知山にキャンパスを持っており、現在は 3 年生が 22 名そこで学んでおります。できれば、その学生達が北部地域に定着してほしいと思いながら教育をしているわけです。地域創生テックプログラムというのですが、実は、そのプログラムを受験していただける京都府北部の生徒が少ないという現実があります。30 名中 15 名が京都府北部卒となっておりますが、地名度不足なの

か、その 15 名の枠がなかなか埋まらない。こういった現状があります。

子ども達に対してどのようにアピールを行えば、こういった北部卒などに対して受験者数が増え、地元キャンパスで学んでくれるようになるのだろうと思案しているのですが、例えばどのようなアピールをしていけばよいと思われませんか。御意見をいただければ大変ありがたく思っております。

委員 : 例えば京都工芸繊維大学でいうと、福知山キャンパスがあるということを知丹後市の子供達も知っているかということ、たぶん浸透していないと思います。例えば夢まち創り大学などを小学生くらいにもアピールをされるというのではと思いますので、資料をいただけたらと思います。また、受験の幅を広げていくために、高校生の授業にこういったセミナーも組み込まれるといいと思います。

委員長 : ありがとうございます。確かにアピール不足もあるということは重々承知しているのですが、なるべく小学生や中学生といった頃からもう少しアピールをさせていただいて、その先の高校受験、大学受験に繋げてもらうというところかなと思います。その辺り、この夢まち創り大学事業とも協力していただけたらと思いますので、よろしくお願ひします。他に御質問等ございませんでしょうか。

委員 : 確かに、高校生からでは少し遅いかなと思います。子ども達にもう少し早くから、自分は地域に帰って仕事をするのだということを根付かせるためには、地域にこんな仕事があって、それがどれだけ大切かということをおさい頃から学ばせるのがいいと思います。外で仕事をした方がたくさん稼げるといったことを親が子どもに言うようでは、将来こちらに帰ってくる子どもはいないと思います。

丹後地域でみんながいかに幸せに暮らせるかということをお、私たちがもっと認識して子ども達に伝えていかないといけない。

委員長 : ありがとうございます。そういった意味では、資料 4 の 3 ページに「地元企業ガイドブック作成」、「インターンシップ受入企業の支援」というのがございますが、例えば京都工芸繊維大学では、京都府北部の企業でのインターンシップを行うとか、京都府北部の企業や自治体からいただいた課題を解決するグループワークのような授業をやっております。

そういった意味では、インターンシップ受入企業に対する支援というのは非常に素晴らしいことだと思ひのですが、現実問題として、北部 5 市 2 町の様々な企業からインターンシップのオファーを受けることができてお、残念ながら、京丹後市の企業様でインターンシップをさせていただく学生が極めて少ない現状があります。なぜかというお、福知山キャンパスから京丹後に行くには距離があるからです。学生がインターンシップを行った地域で一番多かったのは、福知山市の工業団地、綾部市の工業団地です。なぜなら、福知山キャンパスから通えるからです。

京丹後市でのインターンシップの場合、福知山キャンパスからは学生は通うのが困難。そうすると、宿舎をどうするのかわ、わざわざ引越すのかとい

う話になり、色々と課題が出ております。このあたりが、インターンシップ受入企業の支援の一貫として、何か解決していただけるような方法や可能性がないかと思うのですが、市はいかがですか。

事務局 : 商工振興課からお答えさせていただきます。

御指摘のように、確かに宿泊施設という点で、学生の皆様が大変苦勞しているという現実を耳にしているところでして、その対策については、何らかのかたちで考えていきたいとは考えているところです。しかし、宿泊施設を市が建設して運営するのか、あるいは民間の方に依頼するのか。民間への依頼となると、インターンシップの時期が夏休みや冬休みにあたりますので、宿泊施設は当然お忙しい時期になります。そういったところで、なかなか打開策を生み出せないのが現状でして、引き続き検討していきたいと考えているところです。

委員長 : ぜひよろしくをお願いします。

委員 : インターンシップの件については、舞鶴高専であったり京都工芸繊維大学であったり、以前は我々の業界でも結構インターンシップを受け入れさせていただきました。京丹後キャンパスが宿泊可能ですね。京都工芸繊維大学様に関しては有効に活用できるのではないかなと思います。

それと、インターンシップの補助金ですが、この制度は、基本的には就職の前のインターンシップという捉え方ですよね。普通の企業体験という捉え方ではないですよね。どうなのでしょう。

事務局 : 就労体験という位置付けもありますが、就労前にその職業が自分に合うかどうかの見極めをしていただくものでありますので、その支援の仕方についても、インターン学生の交通費や宿泊費用を事業所が負担した場合にそれを事業所に支払い支援するというやり方になっています。

委員 : この補助金制度は3年前からですね。どれくらいの実績でしょうか。

事務局 : 実績は初年度が約70万円程度、それからは50万円と徐々に下がってきておりまして、大変恐縮ですが、平成30年度につきましては、予算を削らせていただきました。これは、実績が少ないと申しますか、特定の企業様だけが活用されていた状況でありましたので、とりあえずこの支援は打ち切らせていただきました。

ただ、インターンシップということ自体を企業の皆様が知らないということもありましたので、昨年、今年とインターンシップの活用に関するセミナーを開催させていただきました。インターンシップの利用ということを企業の皆様にも検討いただくようになりましたので、補助金の復活につきましては、改めて来年度以降に検討をさせていただきたいと考えております。

委員長 : ありがとうございます。

どうでしょうか。他の御質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。では、議事2についてはこのあたりで、続きまして議事3「平成30年度取組事業について」、事務局から説明をお願いします。

事務局 : 【資料5、資料6により説明】

- 委員長 : それでは、議事 3 に関する御質問、御意見と、全体的な意見交換に移らせていただきます。委員の皆様、御意見、御質問をお願いします。
- 中小企業の経営強化は地元金融機関の御協力となってくると思います。そういった観点から、何か御意見等ございませんでしょうか。
- 委員 : 企業では、国の補助金等を利用された設備投資などが、ここ最近活発化されています。採択される、されないもあるのですが、企業様によりましたら、補助金を利用せずにできる場合もあります。金融機関もできる限りの応援をさせていただきたいなと思っております。
- 委員 : 先ほどありましたように国の補助金や、商工会にも補助金制度がありますが、金融機関からは資金調達の手段のひとつとして提案をさせていただいて、採択されなかった場合には、色々な面で対応をさせていただこうと務めております。
- 委員長 : 他に、質問等ございませんでしょうか。御意見でも結構です。
- 私からも質問させていただきます。再生可能エネルギーですが、なかなか先行き厳しいものがあると考えているのですが、そのあたりは市としてはどのようなお考えでしょうか。
- 事務局 : 先ほど、平成 29 年度の全体の進捗状況のところで説明をさせていただいたと思いますが、京丹後市としては、これまでモデル事業的に京丹後市が太陽光のパネルを設置してきたということがあります。そのモデル的にさせていただいたものを地域の方に見ていただきながら、地域の方にも取り組んでいただくということで考えているところです。
- ただ、確かに仰るとおり、これからどうかという点については、方向性としては正直わからないところがありますが、我々が考えておりますのは、生産した電力を売るとかそういった事だけではなくて、地域内の消費電力を地域内で生産できればなというようなことであります。補助制度も持たせていただきながら進めていければと思っております。
- 委員長 : 本日、産業分野、農業分野、森林分野でも御出席いただいておりますので、市に対して何か御要望や御意見等ございませんか。
- 委員 : 京丹後市管内では、京水菜、九条ねぎ、堀川ごぼう、海老芋などブランド化された野菜がたくさん生産されているわけですが、高齢化ということが課題ですし、担い手不足という部分も問題になっています。
- 農業者様の農業所得の増大についても、御支援いただけるとありがたいなと思います。
- 委員 : 丹後地域は、人工林、いわゆる杉やひのきが比較的少ない地域になっています。そのなかで、国の政策は、人工林の整備が中心になっているということで、なかなか厳しい状況であります。人工林以外がうまく活用できるような方法がないかなということを日々考えています。各企業様の営利活動になってきますので、なかなか行政の支援はしにくい部分もあるかとは思いますが、そのなかでも、活動を生み出すようなアドバイス、講演会なども、行政の支援という形で行っていただければいいなと思います。

それから、先ほど村おこしや地域づくりの話がありましたので、それに関してです。新しい事業に対して補助金等を設立されるのもいいのですが、今あるものをなるべく減らさないようにしてほしいと思います。実は、先週、久美浜のまるかじり祭りに事務局の一員として関わらせていただきましたが、その祭りに対する市の補助金も削られていくという話がありまして、関係者から悲痛な叫びを聞いています。この祭りは大変盛り上がる祭りですし、魅力のあるまちづくりという部分で、結構輝くイベントになっていると思います。新しい村おこし、地域づくり、地域おこしも必要ですが、今まである部分についても、厳しい財政状況もあるとは思いますが、十分考慮していただければありがたいと思います。

委員長 : ありがとうございます。副委員長から何かございませんでしょうか。

副委員長 : 商工会の色々な役割として、国からの補助金が多様に出てきております。それも支援としては成立しているのですが、基本的に商工会の立場から言いますと、経営支援が中心でありまして、補助金をもらうためにやっているのではなく、それぞれの企業が円滑に運営できるようにするのが本来の姿だと思っており、補助金がもらえればいいというような考え方ではまるっきりないと考えております。そういった意味で、職員のスキルアップのもとに色々な企業があつて、いわゆる市の安定的な産業構築ができるようなことを求めたい。

総合戦略のなかでは、やっぱり我々はこの町に住んでよかった、暮らしやすいというのが目的です。

私の仕事上の話ですが、先日、中国から北京の方が見えておられまして、何をしに来られたのかということについてお話をしていました。結局この方がうちに来た理由は、「繋がり」だけなのです。今、スマホがあればどこでも瞬時に簡単に情報が得られる世の中になってきました。だから京丹後市は、ロンドンやパリ、世界と繋がっている。北京でもどこでも、もう隣の町なのです。子ども達にもそういった意識を持ってほしいと思います。どこに住んでも同じだという感覚にもなってしまうのですが、この方と話して、私はつくづく、「ここじゃないとダメだ」というのは「人」だけではないかと思いました。やはり人と人が繋がっていくことが一番大事なのだなと思っておりまして、そういった意味で、市民 5 万 5 千人の一步一步、枝葉を考えたら、すごい広がりがあるのです。我々はそれを本当の宝として、町を発展させるにはそれしかないと思っております。

委員長 : ありがとうございます。予定していた時刻になりましたので、意見交換は終了とさせていただきます。

事務局においては、本日の各委員からの御意見等を踏まえ適切に PDCA サイクルを回していただき、総合戦略の効果的な推進を図り、最終的に実を結ぶようにしていただきたく考えております。

それでは、議事は以上です。事務局から連絡事項などがありましたらお願いします。

事務局 : 本日は貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。人口減少対策として、今後の施策の企画立案に活かしていきたいと考えております。

なお、委員の皆様は、本日新たな委員の皆様は委嘱をさせていただいたところではありますが、来年3月27日までとなっており、特別なことがなければ、会議は本日が最後となります。皆様には、総合戦略の推進、検証について、2年間大変お世話になり誠にありがとうございました。

また、この中の多くの委員様は、総合計画審議会の委員も兼ねていただいております。総合戦略の事業につきましては、基本的には総合計画のなかの事業ということでございますので、総合計画の方の評価検証について引き続きお願いしたいと思っております。また、委員の皆様におかれましては、各分野のお立場から、今後とも御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

委員長 : それでは、進行を事務局へお返しします。

事務局 : 委員長ありがとうございました。

皆様に置かれましては、たくさんの御意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、以上を持ちまして、平成30年度京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を終了させていただきます。長時間にわたり、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。